

日本フンボルト協会 2023年度第2回常務理事会議事録

日時： 8月26日（土）14時から16時25分まで

開催形式： オンライン会議

出席者：伊藤眞理事長、縣公一郎副理事長、高山佳奈子副理事長、伏木信次副理事長（関西支部長）
鏝田武志、井田良（関東甲信越支部長）、岡林洋、香田芳樹、坂越正樹（中四国支部長）、
須田利美（東北支部）、高橋宗五、高橋義人、西土彰一郎
櫻田嘉章（顧問）、広渡清吾（顧問）
西川伸一（AI シンポジウム説明時に特別参加）
関映子（事務局）

【報告事項】

1. 浅田和茂前副理事長のご逝去について

伊藤理事長および事務局より、浅田和茂前副理事長ご逝去について報告があり、哀悼の意が表され、併せて、協会HPに追悼記事を掲載することが了承された。

2. 2023年度総会について

事務局より、2023年度総会について、下記のとおり報告があった。

- 日時：2023年6月10日（土）
- 方式：ハイブリッド方式で開催
対面式会場はドイツ文化会館4FOAG会議室
- 参加者：対面式20名 オンライン60名
- 合田会員の許諾を得たうえで、会員用ホームページに期間限定で講演資料を掲載する。
- なお、今回、録画が上手くいかなかったため、今後、講演者は主たるPCの前で動かないようお願いするなど検討していく。

プログラム	1. 13:15-14:00	合同常務理事会・理事会
	2. 14:00-15:00	2023年度会員総会事務協議
	3. 15:00-16:00	講演会 合田義弘会員（2022年度シーボルト賞）
	4. 16:00-16:15	新理事会
	5. 16:30-	懇親会（ドイツ文化会館1階 Mahlzeit）

【審議事項】

1. 新常務理事の所掌について（資料1）

伊藤理事長より、資料1に基づいて新常任理事の所掌について説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

2. 2024年度総会について

事務局より、2024年度総会について、下記のとおり提案があり、審議の結果、承認された。

- 日時：2024年6月8日（土）13時30分から
- 方式：ハイブリッド方式で開催する。対面式会場はドイツ文化会館4FOAG会議室を使用。
- 懇親会：ドイツ文化会館1階 Mahlzeit で開催予定。
- 講演者：稲垣史生会員（海洋研究開発機構〔JAMSTEC〕、2023年度シーボルト賞受賞者）

3. 本年度の留学説明会開催について

(1) 鏝田理事により、留学説明会終了後、個別に行われたフォローアッププログラムについての経緯の説明があり、意見交換ののち、今後の方針として以下のことが承認された。

- 留学説明会参加者の個別指導の仕方については、引き続き留学説明会担当者が検討する。
- 留学説明会参加者の個人情報については、日本フンボルト協会の個人情報保護方針の厳格化を含め、留学説明会の責任開催母体である常務理事会（事務局）が責任をもって、個人情報の管理を徹底する方策等を速やかに検討する。

(2) 鏑田理事より、留学説明会の開催時期について、準備期間を考えて2024年3月開催を目途に検討する旨の説明があった。

4. 日独共同研究奨学金について

- (1) 伊藤理事長から2024年度同奨学金選考委員会委員長として、伏木副理事長が提案され承認された。
- (2) 伏木同奨学金選考委員長より、2024年度選考委員会委員について、資料2に基づいて説明があり、審議の結果、原案通り承認された。(資料2)
- (3) 伊藤理事長より、同奨学金選考委員会規程の改定について、資料3に基づいて説明があり、審議の結果、原案通り承認された。(資料3)
- (4) 伊藤理事長および事務局より、2023年度奨学金授与式について報告があった。助成対象者等は下記のとおり。

1. 課題：『超高速蛍光寿命イメージングによる細胞内小器官の大規模解析』

申請者：合田 圭介（東京大学大学院理学系研究科）

研究分野：物理学、化学

助成対象者：Vishnu Narayanan Suma Sreechakram

2. 課題：『日本の一党支配体制における立法上の野党の役割』

申請者：小嶋 大造（東京大学大学院農学生命科学研究科、公共政策（農業政策、財政政策）

研究分野：日本政治

助成対象者：Elena Korshenko

3. 課題：『原子核時計実現に向けたトリウム229イオンのレーザー冷却技術の開発』

申請者：山口 敦史（専任研究員、国立研究開発法人理化学研究所）

研究分野：原子時計・原子のレーザー精密分光・イオントラップ

助成対象者：Johannes Tiedau

5. 本年度のZoom 討論会等について

- (1) 西川理事より、AIシンポジウム案について、下記のとおり説明があり、審議の結果、
1. の講演者について縣副理事長を中心に検討することも含め、承認された。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">1. LLMの概略を聞く
(ニューラルネット、トークン、Transformer/attention等、簡単な原理と現状)2. 進む医学分野への応用3. 大規模LLMや他のモダリティーのAIは哲学を変えるか 実験哲学、合成哲学4. LLMと教育改革5. 芸術とLLM6. 道徳、一般意志(ルソー)、LLM7. 新しい言語学 |
|--|

- 7回シリーズとし、2024年初頭から開催予定
- 3, 4については、鈴木晶子先生(所属・略歴については以下参照)を候補者として調整中。
 - ・ 京都大学 学際融合研究教育推進センター 特任教授(名誉教授)
(教育哲学、科学哲学、倫理学、人類学専攻)
 - ・ 革新知能統合研究センター 客員主管研究員

・ ベルリン自由大学客員教授、2009-2010年ドイツ・ケルン大学哲学部に留学

(2) 縣副理事長および岡林理事より、本年度のZoom討論会の開催時期および準備の進捗状況について下記のとおり説明があり、審議の結果、承認された。

- 日時：2023年11月11日（土）
- テーマ：「日常」の扉をあける：ゲーテ『親和力』とその時代」
- 日本フンボルト協会主催

(3) 縣副理事長および須田理事より、同じく本年度のZoom討論会の開催時期および準備の進捗状況について説明があり、審議の結果、日本フンボルト協会と東北支部の共催として、原子核研究分野の大塚孝治氏（東大名誉教授・2023年度 Forschungspreis受賞者）を講演者とすること、日時はこれから検討することが、それぞれ承認された。

6. 支部の2023年度の活動及び計画について

(1) 北海道支部

居城北海道支部長欠席のため事務局より、下記のとおり報告があった。

- 7月8日に Prof. Dr. David Wolff（2023年度 Forschungspreis）による講演会を開催した。
- 2023年9月23日（土）に Prof. Dr. Karthaus 会員が講師となり北海道支部講演会を Zoom オンラインで開催する予定である。
- その他、支部総会・理事懇談会の開催、北海道地区の学生および若手研究者へのドイツ留学説明会の開催を予定している。

(2) 東北支部

須田東北支部長より、下記のとおり報告があった。

- DAAD 東京主催で元奨学生（DAAD や AvH）を招待してアルムニ会を9月23日に開催する。その機会に同時開催で東北支部の支部総会と記念講演会を予定している。
- 記念講演会（12:00-13:15）
 - ・ 講演者：千葉証司教授（東北大学大学院理学研究科天文学専攻天文学講座）
 - ・ テーマ：「近傍宇宙論：古い星に刻まれた銀河形成史と暗黒物質の正体」
 - ・ ハイブリッド方式で開催のため、フンボルト会員全員に案内を出して参加を募る予定。
- また、東北支部では、今年度のフンボルト賞を受賞された大塚孝治氏（東大名誉教授）に、ご自身の研究（原子核物理学）について講演（日本フンボルト協会と共催）を行っていただくため、日程を含めた調整を進めている。関心のある日本フンボルト協会会員が参加できるよう Zoom 配信を予定している。

(3) 関東甲信越支部

井田関東甲信越支部長より、下記のとおり報告があった。

- 初冬の時期に留学説明会の開催を予定（日本フンボルト協会主催留学説明会との兼ね合い）
- 2023年度（2024年3月）の総会開催計画
- 総会の際の支部講演会の計画とその検討（澤田誠二先生への依頼を検討する）
- 関東甲信越支部 HP への投稿募集、更新
- 役員人事について
 - ・ 副支部長を新たに設置し、香田芳樹先生を選任
 - ・ 支部顧問に澤田誠二先生と宮川新平さんを選任

(4) 中部支部

和田中部支部長、種村理事欠席のため事務局より、下記のとおり報告があった。

- 2023年度支部幹事会
 - ・ 日時：夏頃
 - ・ 実施方法：未定
- 中部支部総会の日程、実施方法、講師について未定
- 中部支部での留学説明会の開催について未定
- 2023年度中部支部総会、懇話会、懇親会
 - ・ 日時：可能なら秋頃に開催したい
 - ・ 実施方法：できれば対面で実施

(5) 関西支部

伏木関西支部長より、下記のとおり報告があった。

- 現在のところ、関西独自の留学説明会といった、予算措置が必要な活動計画はない。
- フンボルト協会総会終了後、できるだけ早い時点で新しい関西支部の体制確立のための理事会開催、来年2-3月の総会、総会に向けた理事会が主な活動になる。

(6) 中四国支部

坂越中四国支部長より、下記のとおり報告があった。

- 支部会員のネットワークを構築し交流の契機となるよう「支部通信」3号を作成し、メール等で配信した。支部会員2人のエッセイを掲載した。
- 前年度に引き続きドイツ留学説明会に協力するとともに、支部地区内での日独学術文化交流に資する活動を支援する。

(7) 九州支部（武内先生ご欠席）

武内支部長欠席のため事務局より、下記のとおり報告があった。

- 2023年度総会および講演会を開催する（2023年秋から冬）。
- 総会および講演の開催方式は、新型コロナウイルスの感染状況をみて、決定する。状況によっては、2021年度、2022年度と同様にオンラインによるリモート開催とすることも検討する。
- 例年行ってきた会員間の懇親会も、新型コロナウイルスの感染状況をみて、状況が許せば、実施を検討する。

7. ニュースレターの発行について

事務局より、下記のとおり報告があり、審議の結果、承認された。

- 常務理事会決定事項を追加で記載して、9月初めに発行する。
- 1,300部印刷しなければならず事務局の負担が大きいため、ニュースレターのデジタル化を進めたい。
- ゆうちょ銀行の払い込み用紙の同封ができなくなるため、銀行振り込みでお願いするか、ネットバンキングやクレジットカード支払いを今後検討していく。

8. その他

(1) 伊藤理事長より、2023年度シーボルト賞について、下記のとおり報告があった。

- 受賞者：稲垣史生会員（海洋研究開発機構（JAMSTEC））
- 授賞式は、アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の年次総会と併せて、6月29日にベルリンのベルビュー宮殿で執り行われ、連邦大統領から賞が直接授与された。

(2) 高山副理事長より、公式ウェブサイトに明記されていないフンボルト財団奨学金応募の条件について、法務博士はPh.D.に相当しないこと、ドイツ滞在が長い人の場合、ネイティブ相当となって応募できないことがあるとの説明があった。

(3) 坂越中四国支部長より、西日本フンボルト会時代から積み立てられていた分配金(972,641円)について、その扱いを支部役員会に諮り支部会員においても報告・認容されたので、日本フンボルト協会に寄付したい旨の申し出があり、審議の結果、常務理事会として了承された。

(4) 伊藤理事長より、Max-Planck Institut(以下 MPI)の日本へ誘致する構想について、日本フンボルト協会に相談および支援の要請を受けたことが報告された。意見交換の結果、協会としては、同協会の趣旨などを踏まえ、まずは MPI の現状および海外に設置されている MPI の規模および財源、また研究分野などに関する情報を収集し、同協会として MPI 設置に関する方向性などを、引き続き慎重に検討することとなった。

9. 次回の常務理事会

次回の常務理事会は以下の要領で開催されることになった。

日時：2023年12月23日（土）14時（オンライン会議形式）

以上